

地域包括ケアシステムにおける認知症疾患医療センターの果たすべき役割 第2報 ～地域生活を継続するためのフォロー方法について～

空井 沙綾¹⁾ 神澤 孝夫¹⁾ 美原 盤²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 認知症疾患医療センター

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]脳・神経疾患専門病院である当院は精神保健福祉士、臨床心理士などの専門職や高度医療機器を配置しており、2016年4月から認知症疾患医療センターを運営している。我々は、積極的な広報活動、研修会などの啓発活動の取り組みにより、住民の認知症に対する理解が深まり、受診が必要と思われる方々の実際の受診に繋がったことを報告した(第59回全日本病院学会 in 石川)。今回、認知症患者が住み慣れた地域での生活を継続できるようにするために、我々がどのようにフォローしたかについて報告する。

[対象・方法]2018年1月から同年12月の間に認知症疾患医療センターを介して当院を受診、正常、軽度認知障害ないし認知症と診断された患者484名への対応について調査した。

[結果]医療提供のあり方は、かかりつけ医からの紹介件数264名に対し、逆紹介したのは338名(逆紹介率128%)、当院へ継続通院は38名であった。生活面について、介護保険の説明や生活習慣改善の指導が429名と多く、その他、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などを紹介し、自宅訪問や介護保険サービスなどの導入調整を行ったのは26名、既に利用していた事業所に連絡し情報共有したのは18名、それまで利用していたサービス内容の変更に至ったのは11名であった。

[まとめ]認知症患者を地域で支えていくために、認知症疾患医療センターの果たすべき役割は大きい。すなわち、認知症診療を必要とする住民を掘り起こし受診に結びつけるのみならず、診断後、正常、軽度認知障害から進行した認知症患者まで、そのレベルに合った支援をすることが望まれる。さらに患者とともにその家族への適切な対応も必要である。地域包括ケアシステムにおいて、認知症疾患医療センターは患者・家族の個別性を加味した上で地域生活を継続できるよう支援をすることが求められる。